

緒方貞子著「追悼 ネルソン・マンデラ 南アフリカ元大統領を偲んで」外交、Vol.23、Jan.2014、時事通信社、2014 年 1 月 31 日刊を読む

マンデラ氏から何を受け継ぐべきか

1. 私が南アフリカに初めて行ったのは国連難民高等弁務官の時、国連から南アが制裁を受けていた時期です。アパルトヘイトに終止符を打って南アの政策、ホワイティアフリカンの政策から変えていくべきだということが言われていた時代でした。私の任務は、アパルトヘイトのために国外に脱出していた人たちを南アに帰すことでしたが、その時、アフリカの職員に言われたのは、「国外に逃げた人たちを帰すだけではなく、国内にしながら投獄されている人たちの釈放のために私たちは動いていいか」ということです。
2. 彼らはマンデラさんと直接知り合いだったんですね。職員の中にニコラ・プワキラ・アフリカ局長(当時)という人がいましたが、私に言うんです。「実は、南アには反アパルトヘイト運動で国家に抵抗したために投獄されている人がたくさんいる。あなたにはそういう人たちのことを知ってほしいし、助けてほしい。私たちは仲間の釈放に動いているから、ぜひ支援してほしい」と。
3. マンデラさんの何をわれわれは受け継ぐべきか。マンデラさんは耐えた人です。長く投獄生活を強いられて、我慢、辛抱を重ねてきた。マンデラさんのいろいろな逸話もそういう体験から出てきました。
4. 自分は長く投獄されたのに、武力で復讐^{ふくしゅう}しようなんてことは全然考えなかった。そんなに簡単に克服したわけではなかったのですが、マンデラさんはさまざまなことに耐えて超越していく過程で大きなものを獲得した。
5. というのも、植民地支配から解放された国の場合、新たな政治機構を構築していくという難しいプロセスをみんな踏むわけで、南アもその一つでした。つまり解放されたといっても、黒人すべてが立ち上がっても白人の政治を倒せるような力は現実的にはなかったわけですから。(白人の)デクラーク大統領(89～94年)もしっかりした方でしたが、マンデラさんの辛抱、そして、釈放された時、自分だけがさっさと幸せになろうとしないでみんなのために動かれたこと。われわれが受け継ぐべき精神というのは、そういうものだと思います。
6. 「インピクタス」という映画がありましたね。あれもそうでしょう。黒人が解放され、白人もみんな一緒に団結する方向に向かおうとする。そこには人々に対する深いやさしさがあったのです。

P98～99

[コメント]

1. ネルソン・マンデラ氏から何を学ぶか。緒方貞子先生の短いコメントが雑誌「外交」に掲載されていてとてもよい勉強になった。
2. ところで、この「外交」は、ゆっくりと読めば誰でも日本の外交の基本的な考えがよくわかる素晴らしい内容ばかりだ。緒方先生はじめ執筆陣も編集者も皆、日本の外交の発展を心から願っていることがよくわかる。

— 2014 年 1 月 28 日 林 明夫記 —